

恵海著「独立の気力ある者が勝つ」大機小機、日本経済新聞 2015年2月25日(水)を読む

独立の気力ある者が勝つ

1. 物価はわずかずつだが上昇に向かい始めた。
 - ①家計のインフレ期待は原油価格の下落にもかかわらず、1%台を維持している。
 - ②国内総生産(GDP)の項目別デフレーターは、設備投資、消費などほぼ全項目が上向き、内需は6四半期連続の上昇となった。
 - ③全体の上昇率も消費増税分を上回っている。
2. 先行きについては、原油価格下落の主因である供給過多が徐々に是正され価格も反転してきている。国際通貨基金(IMF)の最新の分析では年央には1バレル60～65ドル程度に回復する見込みだ。
3. 実体経済は、すでに輸出、設備などの主要項目が増加に転じた。
 - ①原油価格の低下は消費に好影響を与え、企業の取引条件を好転させている。
 - ②日本経済は十分な金融緩和を背景に、ゆっくりとしたスピードで再び拡大の過程に入ってきている。
4. 4月には賃金上昇も加わる。年央以降は米国金利の上昇による更なる円安も想定され、今後は、売り上げと利益の拡大という好循環が期待される。
5. しかも、昨秋の日銀の追加緩和で長期債の購入が一段と進み長期金利が低下した。
 - ①「GDPの伸び率が長期金利を上回る」という黒田東彦総裁の企図が実現し、資産価格の適度な上昇が実体経済に好影響を与えている。
 - ②現時点では追加緩和の必要は無さそうだ。
6. 日本がデフレから完全に脱却して飛躍するカギは、恵まれた環境にある日本の企業経営者自身にある。
 - ①リスクを取って、世界に勝てる独自技術を組み入れた設備投資を国内で増やし、グローバル競争に打って出ることだ。
 - ②「追加緩和が必要」「公共投資を増やせ」と当局に依存するばかりでは競争に勝てない。
7. 福澤諭吉の「学問のすすめ」は「天は人の上に人を造らず」が有名だが、第3編に「独立の気力無き者は人に依頼し人を恐れ諛^{へつら}う。ついには、面の皮鉄のごとくなり、恥ずべきことを恥じず、論ずべきことを論ぜず、人を見れば唯腰を屈するのみ」との言葉がある。

8. 日本企業に必要なのは、過去の成功体験に執着せず、自らの力を信じ、他者に頼らず、諛わず、先端技術を開発し投資することだ。食うか食われるか、グローバル化の厳しい競争に打ち勝ち、国家百年の計を開かなければならぬ。

[コメント]

2014年12月30日の「経営者は羊よりオオカミに」に続く、恵海氏の経営者に対する熱いメッセージ。特に、福澤諭吉先生の「学問のすすめ」にある「独立の氣力無き者は人に依頼し人を恐れ諛^{へつら}う。ついには、面の皮鉄のごとくなり、恥ずべきことを恥じず、論ずべきことを論ぜず、人を見れば唯^{ただ}腰を屈するのみ」の言葉は参考になる。

国家百年の計の担い手は経営者、もっと具体的にいえば「企業家」なのかも知れない。

— 2015年2月26日 林 明夫記 —